

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 西田 圭一郎 岡山大学病院運動器疼痛センター センター長

研究要旨

慢性疼痛患者において不眠の有病率は高く、目的変数を不眠、説明変数を単変量解析で有意差を認めたものとして多変量解析を行った結果、痛み、不安、抑うつ、QOL が不眠に関連する因子として算出された。

A. 研究目的

慢性疼痛患者において不眠の有病率は高く、痛みよりも不眠で日常生活に支障を来していることを経験する。そこで、慢性痛患者において不眠の有病率と不眠に関連する因子について調査する。

B. 研究方法

3 ヶ月以上持続する慢性疼痛患者で痛みリエゾン外来初診 301 人で、男性 109 人、女性 192 人、平均年齢は 61.7 歳であった。対象患者をアテネ不眠尺度 (AIS) を使用し不眠の有無で 2 群に分けた。この 2 群に対し単変量解析、多変量解析を行い、不眠に関連する因子について検討した。

(倫理面への配慮)

口頭で説明し紙面で同意を得た。

C. 研究結果

301 名中 219 名 (72.8%) で不眠を認めた。不眠の有無で 2 群に分け、単変量解析を行った。不眠あり群では、NRS が高く、破局的思考、不安、抑うつを認め、疼痛生活障害、QOL 低下、自己効力感低下を認めた。目的変数を不眠、説明変数を単変量解析で有意差を認めたものとして多変量解析を行った。その結果、痛み (NRS)、不安・抑うつ (HADS)、QOL (EQ5D) が不眠に関連する因子として算出された。

D. 考察

睡眠と慢性疼痛に関して、慢性痛患者の半分以上に不眠を認めると言われている。睡眠と疼痛はお互いに影響しあっており、どちらかと言えば不眠が疼痛に影響すると言われている。これまで不眠に対する投薬治療で痛み

が軽減するという論文が散見されているが、さらなるエビデンスの蓄積が必要である。本検討では、不眠に不安や抑うつが影響していたため、多角的なアプローチがやはり重要であると考えられる。

E. 結論

- 慢性疼痛患者の 72.9% に不眠を認めた。
- HADS や EQ5D が不眠の有用なスクリーニングツールとなる可能性がある。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Tsuji H, Tetsunaga T, Tetsunaga T, Misawa H, Oda Y, Takao S, Nishida K, Ozaki T. Factors influencing caregiver burden in chronic pain patients: A retrospective study. *Medicine (Baltimore)*. 2022 Sep 30;101(39):e30802. doi: 10.1097/MD.00000000000030802.
- 2) Tsuji H, Tetsunaga T, Tetsunaga T, Misawa H, Oda Y, Takao S, Nishida K, Ozaki T. Evaluation of SARC-F and SARC-CalF for sarcopenia screening in patients with chronic musculoskeletal pain: A prospective cross-sectional study. *Medicine (Baltimore)*. 2022 Jul

22;101(29):e29568.

年2月26日

doi: 10.1097/MD.00000000000029568.

- 3) Oda Y, Takigawa T, Ito Y, Misawa H, Tetsunaga T, Uotani K, Ozaki T. Mechanical Study of Various Pedicle Screw Systems including Percutaneous Pedicle Screw in Trauma Treatment. *Medicina (Kaunas)*. 2022 Apr 20;58(5):565. doi: 10.3390/medicina58050565.
- 4) Kajiki Y, Tsuji H, Misawa H, Tetsunaga T, et al. Psoas muscle index predicts osteoporosis and fracture risk in individuals with degenerative spinal disease. *Nutrition*. 2022 Jan; 93: 111428.
- 5) 梶木裕矢, 辻寛謙, 三澤治夫, 鉄永倫子, 中原龍一, 尾崎敏文. 【整形外科画像診断・評価の進歩】CT CTによる大腰筋評価と骨密度,骨折リスクとの関連. *整形外科* 73 巻6号 566-571,2022.
- 6) 鉄永倫子, 鉄永智紀, 三澤治夫, 尾崎敏文. 【整形外科におけるダイバーシティ】脊椎脊髄病医のダイバーシティとキャリア形成. *整形・災害外科* 65 巻7号 893-900, 2022.
- 7) 鉄永智紀, 鉄永倫子. 運動器疼痛のトータルマネジメント 不眠に注目して. *クリニシアン* 69 巻3号 292-297.2022.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

分担協力者

鉄永倫子 岡山大学病院運動器疼痛センター
副センター

2. 学会発表

- 1) 鉄永倫子, 鉄永智紀, 尾崎敏文. 大学病院の役割から整形外科診療におけるリモート医療を考える. 第95回日本整形外科学会学術総会, シンポジウム. 2022年5月19日~22日, 神戸コンベンションセンター
- 2) 鉄永倫子. 慢性腰痛に対するチームアプローチ. 第32回腰痛シンポジウム. 2022